

令和6年度 八代市立高田小学校 校内研修計画

1 研修のねらい

校内研修を通して、教育力の向上や今日的課題に対応できる教師としての資質の向上を図る。

- (1) 今日的課題に対応するための研究
 - (2) 教師の授業力の向上に関する研究
 - (3) 今日的課題に対応するための修養
- └── テーマ研: 学力充実に関する研究
- ── 現職研修: 人権教育、特別支援教育等

2 テーマ研究について

(1) 研究主題

「確かな学力を身につけた児童の育成」
～主体的・対話的で深い学びを通して～

(2) 主題について

「確かな学力」の育成とは、「実際の社会や生活で生きて働く知識・技能」「未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等」「学んだことを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力・人間性等」の3つのバランスのとれた資質・能力を育成することだと考える。新学習指導要領の基本の考え方は子供たちの「生きる力」を育むためには「何を学ぶか」ではなく、「何ができるようになるか」を目指すと記してある。バランスのとれた「確かな学力」を育成するためには、児童自身がこれから先のよりよい自分を想像し、目指す自身像のために「どのように学ぶのか」というについて焦点をあて研究をすすめていく必要がある。そのために、副主題である「主体的」「対話的」「深い学び」という視点からの授業改善に取り組んでいきたいと考える。

(3) 主題設定の理由

ア 今日の課題から

近年、知識・情報・技術をめぐる変化が加速し、Society5.0に代表されるような情報化やグローバル化といった社会的変化が、人間の予測を超えて進展してきている。これからの子供たちには、このグローバル化の進展や急速な技術革新など、変化の激しい社会に対応する能力を身に付けるとともに、これからの社会がどんなに変化し、予測困難になっても、自ら学び、考え、未来を切り拓いていく力が必要である。また、日本では新型コロナウイルス感染症が「5類感染症」に移行し、単にコロナ禍以前の姿に戻るのではなく、これまで制限されてきた学校教育活動のうち真に必要なものを回復させるとともに、GIGAスクール構想の下で生み出されてきた多様な授業実践の工夫を取り入れることによる、新しい学びの在り方へと進化を遂げていく必要がある。そのような社会の中で、人間らしい感性を働かせながら多くの人とかかわり、よりよい社会と幸福な人生を自らの手で作っていく力の重要性はさらに増していくだろう。このような背景から、児童自身が学ぶ意味を見だし、様々な人との対話を通して学びを深めていくことをめざした本研究は、これからの社会を生きる子どもたちを育てるにあたって意義深いものと考えられる。

イ 本校の教育目標から

本校の教育目標は、「夢の実現に向けて、主体的に学び続ける高田の子」の育成である。本研究では、学級経営力の向上と授業改善・授業力向上の視点を柱として、「確かな学力」「豊かな人間性・社会性」、「たくましい心と体」を身につけていくことをねらいとしており、学校教育目標の具現化に寄与できると考える。

ウ 本校の実態から

本校は、昨年度、授業改善・授業力向上に焦点を当て、課題の設定の工夫、対話を通じた深い学びの在り方、振り返りなど、授業づくりを通じた学力向上を研究してきた。また、よりよい学級集団づくりのために学級経営力向上の研究も行ってきた。しかしながら、昨年度の県学力調査においては正答率が学年によって差が大きいことが課題に上がった。また、i-checkの結果からは「学級の規範意識」「いじめのサイン」の項目がどの学年においても低い傾向がみられ、日常の様子からも、時と場に応じた言葉づかいや自分の考えを自信をもって伝える力、決まりを守る力、自らより良いことを進んで行おうとする力、家庭学習の習慣化等に課題があった。そこで、本年度は、昨年度の研究主題を引き継ぎ、学級経営力の向上と授業改善・授業力向上をより深化・充実する取り組みを行い、本校の課題を解決することとした。

さらに、今年度は人権Cブロック研の実施校にもなっているため、昨年度の課題を解決するための一助としてこの機会を生かし、職員や児童の人権感覚を高め、学級経営における児童のより良い人間関係づくりにも力を入れていくこととした。

(4) 研究の内容

(ア) 研究の仮説について

仮説1: 学級経営力の向上

児童一人一人が認め合い・生かされる学級づくりに努め、基礎的・基本的な学習内容の定着と学習規律の徹底に取り組むことで、児童が安心して学ぶ環境が整い、確かな学力の向上を支えることができるだろう。

〈ポイント〉①学級づくり(人間関係づくり) ②基礎基本の定着 ③学習規律

仮説2: 授業改善・授業力向上

児童一人一人が自分の考えをもち自ら課題解決に向かうような導入を工夫し、対話を通して学びを深められるような学習過程を工夫することで、主体的・対話的で深い学びが生まれ確かな学力が育まれるだろう。

※対話的な深い学びとは…子ども同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ、深めること

〈ポイント〉①導入の工夫 ②学習過程の工夫

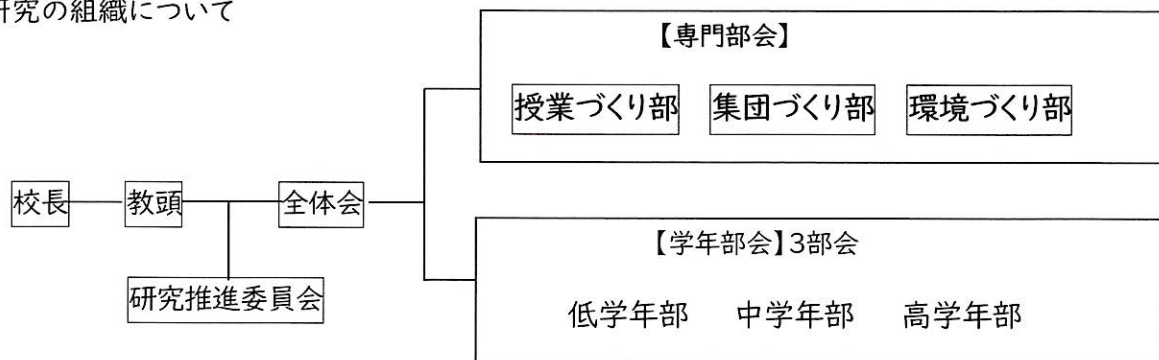
(イ) 研究の方向性

- 児童が自己有用感をもち、互いを認め励まし合える安心できる学級風土づくりに取り組む。
- 落ち着いて学習に向かえるよう、基本的な学習習慣や学習に向かう姿勢(態度)の確立に取り組む。
- 児童一人一人が自分の考えを持ち主体的に学習に参加できるよう、学習への興味・関心を高めるよ

うな課題づくりや自分の考えを持つための手立ての工夫に取り組む。

- 「友だちに自分の考えを伝えたい」「友だちの考えを聞いてみたい」と思える課題設定の工夫に取り組む。また、一人一人の発言を肯定的に受け止める支持的風土のある学級づくりをする。
- 適切な言葉で伝える力や聞く力に課題が見られるため、日常的な言葉の指導や学習規律の徹底に全校で共通して取り組む。
- 授業におけるねらいを明確にし、それを達成するための効果的な ICT 機器の活用を考え、積極的に授業に取り入れていく。

3 研究の組織について



令和6年度 校内研修計画予定 高田小学校

回	月	日	学校行事等	研修内容	研修領域	担当者
①	4	3	職員会議	特別支援教育研修	特別支援	垣田
		4	職員会議	教室掲示等共通理解事項について	テーマ	安田
②		11	職員会議	研究主題・仮説・年間計画、授業力向上研修	テーマ	安田
		17	市教科等研			
③		25	職員会議	各部会の計画立案	テーマ	安田
④	5	1		児童理解研修(県学調分析)	学力向上	井上
⑤		8		研究テーマ理解研修	テーマ	安田
⑥		15	職員会議	人権教育研修(法令・施策の理解)	人権	橋本龍
		22	小中合同研修	人権教育レポート研修	人権	宮田
	5	29	小中合同研修	小中連携教育研修(小学校)	小中連携	井上
⑦	6	5		心肺蘇生法・救命救急・エピペン研修	保健・安全	若宮
⑧		12		学級経営向上研修(スクールロイヤー予定)	テーマ	安田
⑨		19		人権教育研修(各クラスの人権課題)	人権	橋本龍
⑩		26	職員会議	大研①事前研	テーマ	安田
	7	3	職員会議			
⑩		10		大研①事後研	テーマ	安田
⑪		17		スキルアップ研修(〇〇先生)、部会打ち合わせ	テーマ	安田
⑫		22		人権Cブロック研(人権課題、教材選定)	人権	橋本龍
夏 休 み						
	8	21	小中合同研修	人権Cブロック研(指導案検討1回目)	人権	橋本龍
		26	職員会議			
⑬		28		学力向上研修(全学調分析)	学力向上	井上
⑭	9	4		人権Cブロック研(中間報告)	人権	橋本龍
⑮		11		人権Cブロック研(指導案検討2回目)	人権	橋本龍
⑯		18		スキルアップ研修(〇〇先生)、部会打ち合わせ	テーマ	安田
		25	職員会議			
	10	2	小中合同研修	中学校授業研	小中連携	井上
⑰		7	人権Cブロック研	人権Cブロック研 事前研(助言者来校)	人権	橋本龍
⑱		16		部会打ち合わせ	テーマ	安田
		23	職員会議	人権Cブロック研(模擬授業・事後研)	人権	橋本龍
⑲		30		人権Cブロック研(最終チェック)	人権	橋本龍
⑳	11	6		人権Cブロック研 準備 打ち合わせ	人権	橋本龍
㉑		7	人権Cブロック研	人権Cブロック研(授業者 低 中 高)	人権	橋本龍
㉒		13		スキルアップ研修(新宮先生・体育)	テーマ	新宮
㉓		20		スキルアップ研修(〇〇先生)、部会打ち合わせ	テーマ	安田
		27	職員会議			
	12	5	小中合同研修	小学校授業研(全学級公開授業)	小中連携	井上
		11		スキルアップ研修(〇〇先生)	テーマ	安田
㉔		18		スキルアップ研修(〇〇先生)、部会打ち合わせ	テーマ	安田
		24	職員会議			
	1	8	職員会議			
㉕		15		人権教育研修(1年間の振り返り)	人権	橋本龍
		22	職員会議			
		29	小中合同研修	小中連携教育研修(小学校)	小中連携	井上
㉖	2	5		大研②事前研	テーマ	安田
㉗		12		大研②事後研	テーマ	安田
㉘		19		人権レポート報告会(学年部ごと)	人権	宮田
㉙		26	職員会議	県学調分析、年間振り返り	学力向上	井上
㉚	3	5		人権レポート報告会(代表)	人権	宮田
㉛		12	職員会議	研究の振り返り・まとめと来年度の志向	テーマ	安田

【研究授業について】

- ・大研(テーマ研)は1学期と3学期に実施予定とする。(立候補)
- ・人権Cブロック研の授業者は低中高で各1名ずつ
- ・大研・ブロック研の授業者以外は小研を必ず実施する。
- ・12月11日の小中連携の授業は全員授業公開を行う。構想案は書かない。
(5校時は低学年中心、6校時は高学年中心に自由に参観してもらう)